

このコーナーでは、  
営農指導員から、農業のちょっと  
したコツをお知らせします。

農業振興課農畜産振興係 ☎0824-73-1227

### 野菜作りの ワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 謙  
わかやま ゆずる 謙

#### 6月の主な果菜類の栽培管理

6月は暖かくなり、野菜の成長が旺盛になる時期です。また、果菜類の植え付けが終わり、管理作業が中心になります。

果菜類の追肥、整枝や誘引は遅れないよう、限られた時間を効率的に使いましょう。

#### 1 追肥のタイミング

・ナス  
一番果が着果したタイミングで1回目の追肥を行います。

その後は15〜20日おきに窒素成分で10アールあたり3〜4kgを基準に追肥を続けます。

初期の追肥は畦の肩に深さ10cm程度の穴を開けて施用します。

・トマト

1段目の果実がピンポン球大になったタイミングで追肥します。

トマトの過剰な窒素は樹ぼけしやすいため、控えめに施用します。

・キュウリ

収穫開始後、7〜10日おきに窒素成分で10アールあたり1〜2kgを水やりと併せて施用します。キュウリは成り疲れしやすく、

追肥が遅れると急速に樹勢が落ちます。

#### 2 整枝・誘引作業

・ナス

3本仕立てが標準です。1番花の直下から伸びる2本の脇芽を残し、それ以下の脇芽は全て摘み取ります。

主枝と2本の側枝を支柱に誘引します。それ以外の脇芽は発見次第摘み取ります。

・トマト

主枝1本仕立てが基準です。脇芽は5cm以下の段階で摘み取ります。伸びすぎた脇芽を摘むと、樹が痛んで生育が停滞します。

誘引は週2回のペースで行い、主枝を支柱にひもなどで結びます。

・キュウリ

親づる1本仕立て、または子づる2本仕立てが一般的です。

親づる仕立ての場合、5節目までの脇芽と雌花は全て摘み取ります。6節目以降の脇芽は1〜2節で摘みし、果実を1〜2個着果させます。

キュウリは生育が速いため、誘引が遅れると、つるが絡み合います。

### 花作りの ワンポイントアドバイス

営農指導員 永奥 啓  
ながおく 啓

#### 夏・秋に植え付ける花卉栽培

夏から秋にかけて栽培する花は、暖地に比べ種類が限られますが、冷涼な庄原では、その気候を生かして有利に栽培できる花もあります。

例えば、秋出荷のストックは高温下での育苗が難しく、涼しい環境が適しています。また、LAユリは最も暑い時期に植え付けを行うため、冷涼な庄原の気候が強みとなります。

地域ならではの環境を生かした花卉栽培に挑戦してみましょう。

・ストック

#### ① 経営上の特性

直売所で販売しやすく、比較的栽培しやすい花です。

高温期の育苗が難しいため、秋切花の作型は、庄原のような冷涼地が栽培に適しています。

八重咲きを選ぶ「八重鑑別」が必要です。

#### ② 定植と管理

高温対策として寒冷紗で覆い、定植前に十分水やりを行い、地温

を下げます。  
病気は苗立枯病、害虫はアブラムシやコナガに注意します。

・LAユリ

#### ① 経営上の特性

丈夫で、切り花後の球根を利用して複数回出荷できます。

秋出荷の作型は、暑い時期の植え付けとなるため、寒冷紗や水やりで涼しい環境を作ることが重要です。

#### ② 定植と管理

8月頃に冷蔵球根を植え付けます。高温障害を防ぐため、前述した暑さ対策を行い、病気はウイルス病や葉枯れ病、害虫はユリクビナガハムシやアブラムシに注意します。

・シンテップウユリ

#### ① 経営上の特性

種子から育てるため、球根購入費が不要で、栽培に取り組みやすいユリです。栽培方法によっては複数回の切り花も可能です。

#### ② 種まき・定植と管理

11月頃に種まきし、4月頃に定植します。

肥料は控えめに与え、生育を見ながら追肥します。

葉枯れ病予防のため、定期的な防除が大切です。